

(科目コード : 1100220061Y2)

【改訂】第31版(2013-05-07)

【科目】古典

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・1単位

【対象学科・専攻】2組 1年

【担当教員】田村 祐子

【授業目標】

- (1) 古典の読解・鑑賞を通じて、古典に親しむ態度を養うことができる。
- (2) 古語と現代語を対照し、日本語の特質について理解を深めることができる。
- (3) 思想や文化の普遍性・個別性について考察する視座を広げることができる。

【教育方針・授業概要】

古文の組み立て、語句の働き、表記のしかたを理解し、文章の主題や要旨を的確にとらえる方法を学ぶ。
古文教材として『宇治拾遺物語』『伊勢物語』『徒然草』を取りあげて読解・鑑賞する。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：高等学校国語総合古典編：三省堂：978-4-385-72695-3

参考書：新・要説文語文法四訂版：日栄社：978-4-8168-1211-8

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

必要に応じて視聴覚教材を用いる。

【メッセージ】

中学校でもすでに古文に接してきたでしょうが、また改めて入門するつもりでがんばりましょう。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート：10%、小テスト 10%

【授業計画】(古典)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	ガイダンス	(1) 古文学習の意義を理解する。 (2) 授業の目的・概要を把握する。		
第2回～第3回	宇治拾遺物語	(1) 歴史的仮名遣いを理解する。 (2) 内容をとらえながら正しく音読する。		
第4回～第6回	伊勢物語	(1) 基本的な古語の意味や用い方を理解する。 (2) 歌物語の面白さを読み味わう。	レポート	
第7回	品詞の分類	(1) 古語の品詞の特質を理解する。 (2) 品詞分類の手順を会得する。		
第8回～第9回	用言の活用	(1) 活用・活用形・活用の種類といった文法用語を理解する。 (2) 古語の用言の活用について理解する。		小テスト
第10回～第13回	徒然草	(1) 随筆文学の特質を理解する。 (2) 文法をふまえながら現代語訳する。		
第14回～第15回	助動詞	(1) 古語の助動詞の特質や働きについて、体系的に理解する。 (2) 教科書の古文教材を参照して、いろいろな助動詞の意味を理解する。		小テスト